

2012 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC

秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2012 年度秋季大会は、10 月 16 日 (火)～10 月 19 日 (金) に函館市民会館及び函館市民体育館において開催され、802 名 (会員 616 名, 非会員等 186 名) の参加がありました。プログラム確定後の一般講演発表数は、口頭 246 件, ポスター 225 件の合計 471 件で、そのうち、口頭 2 件, ポスター 3 件の発表がキャンセルされました。このほかに、招待講演が 2 件, 若手学術奨励賞記念講演が 3 件ありました。

昨年度同様、講演申し込み、予稿原稿アップロード、事前参加登録と参加登録料及び投稿料の支払いは、ウェブサイト上でおこなう方法をとりました。さらに今年度は、事前参加登録済みかつ年会費納入済みの会員には、名札と領収書を予稿集と共に事前送付し、受付を通らずに入場できるようにしました。事前参加登録数は 510 名、そのうち、年会費納入済みの会員は 366 名であり、受付の混雑がかなり緩和されました。ウェブサイトでの予稿投稿はかなり浸透し、WEB システムにアクセスできないとの申し出が 1 件あったことや予稿原稿の書式が守られていない事例があったことを除き、ほとんどの講演申込を無事に受け付けることができました。472 件の講演申込があり、そのすべてを採択しましたが、プログラム確定前に、1 件のキャンセルがありました。

今年度は、特別シンポジウム『「ブループリント」50 周年—地震研究の歩みと今後』(主催:特別シンポジウム実行委員会)を大会初日に開催したほか、理事会主催による「南海トラフ巨大地震の被害想定等」の説明会を大会 2 日目の昼休みに、「日本地震学会の改革に向けて:行動計画 2012」に関する説明会を大会 4 日目の昼休みに開催しました。一般講演発表の口頭発表会場は 4 会場、口頭発表の時間は質疑応答も含め 15 分としました。若手学術奨励賞受賞者 3 名による記念講演を大会 2 日目に実施するとともに、今大会では 1 件の特別セッションが企画され、活発な議論がなされました。

一昨年度より日本地震学会では、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」を設けました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象です。本年度の審査員は代議員、過去の若手学術奨励賞受賞者、大会・企画委員会から 23 名が選出され、学生会費適用申請をしているのべ 83 名の発表を審査しました。8 名の授賞者は本ニュースレターにて発表されています。

秋季大会の準備、運営面では、北海道大学と北海道立総合研究機構地質研究所の LOC の皆様に全面的にお世話になりました。機関所在地から離れた土地での開催であり、例年以上のご苦労があったことと推察いたします。函館大会の円滑な運営はまさに LOC の皆様の献身的なご尽力によるものであり、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。来年度の秋季大会は 2013 年 10 月 7 日 (月)～9 日 (水) の日程で、神奈川県民ホール及び産業貿易センターを会場に開催される予定です。LOC は JAMSTEC にお引き受けいただいています。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加をよろしく願っています。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様、ご協力ありがとうございました。

LOC からの報告 (LOC)

2012 年度秋季大会は、北海道大学と北海道立総合研究機構地質研究所で LOC を務めました。LOC 全員は離れた札幌在住で、函館の会場の関係者との連絡や調整・設備の確認などで困難な点もありましたが、特に大きな問題なしに終了することができました。函館にある北海道大学水産学部の学生や、ニュースレターで全国から参加する学生に声をかけて、アルバイトの一部を協力していただき、十分な対応もできました。会場の市民会館・体育館の担当の方々、函館市観光協会の皆さん、そして会場設営

の補助をお願いした地元の業者にしっかり対処していただき、このようなあまり前例のない形でも大会が開催できることを示せたと思います。近年の少数の研究機関への重点化に伴い、学会員が特定の地域に集中し、なかなか目新しい場所での開催が難しい状況ですが、函館のような小さな地方都市での開催で、学会員の皆さんに新鮮な気分で参加していただいたと同時に、一般公開セミナーで学会活動を社会に幅広く示すという今まであまり気がつかなかった意義を、実際に開催して感じました。

会場はまもなく改修工事の予定がある施設で、雨漏りや安全管理箇所まで存在し、最新とはとても言えない設備でした。しかし、その代わりにすべての施設がコンパクトにまとまり、大きさも例年よりは余裕があったはずで、首都圏などを除いて、交通アクセスで不便な方もおられたはずですが、予想以上に多くの参加者があり、地方ののんびりした雰囲気の中、会場外では温泉・海の幸・幕末から明治にかけての異国情緒といった要素も、堪能していただけたのでは、と思っています。

ただし、大会を通して苦慮したのは報道関係者への対応でした。従来の研究発表以外の企画がいくつも開催されたことも一因となって、学会・学術活動に理解のないグループからの数多くの電話問い合わせや来場は、LOCの大きな精神的負担となりました。今後の大会運営では、LOC以外で十分な対策を講じていただく必要があります。

にもかかわらず、大会を通して多少のトラブルは発生しましたが、つつがなく終えることができたのは、ひとえに参加された皆さんの熱意と励ましのおかげと、LOC一同、感謝しております。

一般公開セミナー報告 (LOC)

今年度も秋季大会にあわせて10月20日(土)に一般公開セミナーを開催しました。今年度は科学研究費助成事業研究成果公開促進費「研究成果公开发表(B)」と函館市の助成を受け、学会会場と同じ函館市民会館小ホールで実施しました。会場内では、函館海洋気象台による、函館市が過去に被災した地震・津波に関するパネル展示と、展示解説がなされました。

今回のセミナーは講演とパネルディスカッションの二部構成で実施しました。第一講演「東日本大震災と今」(島崎邦彦・東京大学名誉教授)では、東日本大震災を引き起こした地震について、震災発生前の地震学者の理解と行政の認識の違い、函館市周辺の自然環境に関する話題を中心に、丁寧な解説がなされました。第二講演「函館市の地震・津波災害について」(谷岡勇市郎・北海道大学地震火山研究観測センター長)では、東日本大震災を受けて北海道が想定津波を見直した経緯や、津波が函館市を襲う場合の特徴などについての解説がなされました。

後半は上記講演者に加え、函館市で積極的に防災活動に携わってこられた武下秀雄さん(高丘町会長)と丸藤競さん(地域交流まちづくりセンター長)に齋藤祥司さん(札幌管区気象台)をパネリストに迎え、定池祐季さん(北海道大学地震火山研究観測センター)のコーディネートによるパネルディスカッション「東日本大震災後の地震学と函館市の防災活動」を実施しました。武下さんからは、町会(町内会)が中心となって地域内の学校や団体と共に取り組む、災害要援護者の支援について紹介をいただきました。丸藤さんには、函館市西部地区の中学校が地域社会と共に津波防災訓練を実施し、まちづくりセンターが結節点となって中学校と地域社会をつないでいくプロセスを紹介していただきました。また、齋藤さんからは、震災後に分かりやすい情報発信の方法を模索している気象庁の取り組みについて説明していただきました。その後、会場から寄せられた質問カードを軸に議論を進め、函館市の地震・津波防災について、会場に集まった約150名の参加者と共に考えることができました。

最後に、一般公開セミナーを円滑に進めるにあたり協力していただいた函館市役所及び関係者の皆様に深く感謝いたします。

大会プログラムの修正 (大会・企画委員会)

○発表のキャンセル

B31-09 常時微動観測を用いた東日本大震災における被災建物のせん断波速度の評価
°王 欣・入倉孝次郎・正木和明
(愛工大)

- D21-02 北海道と周辺の歴史地震史料：安永八年，九年（1780年）ウрупп島沖地震
 °中西一郎（京大理）
- P2-23 別府島原地溝帯周辺における2011年東北地方太平洋沖地震前後の歪変化
 °中尾 茂（鹿大理工）・松島 健（九大地震火山セ）・大倉敬宏（京大火山研究セ）
- P2-48 微動記録を用いた地震波干渉法による浅部地盤の速度構造の推定
 °安田博信・関口春子（京大防災研）
- P3-31 粘土鉱物の脱水反応におけるメカノケミカル効果および地震性滑り挙動に与える影響について
 °廣野哲朗（大阪大）・谷川 亘・石川剛志（JAMSTEC 高知）・福田惇一（東北大）・松多範子（大阪大）
- 発表者の変更
- A12-07 動的すべりと空隙率変化の非線形相互作用：非整数階微分を用いた解析
 川田祐介・°山下輝夫（東大地震研）